

3 歳児の気質に関する研究

— 1～3 歳児用行動様式質問紙の標準化—

前川喜平（東京慈恵会医科大学小児科）

副田敦裕（東京慈恵会医科大学小児科）

I. はじめに

児は出生後、最初に母親に抱かれ、母乳をもらい育てられる事により、母親の影響を受ける。また児は、出生時よりよく泣く児やおとなしい児など、その備えもった特徴や気質により対応し、母親へ影響を与えているとおもわれる。これらの母子相互作用をはじめ、さまざまな環境要因との相互作用の中で児は成長発達していくものと考えられる。

私たちは、児を育児していく上で、児の能力だけでなく、児がどのようにするかといった行動様式・気質を知る事は、児の発達過程に重要なことと考え、これまでに Carey の Infant Temperament Questionnaire を参考にし、1～2 か月児用および乳児用の各行動様式質問紙を作成して、その標準化をすすめてきた。

今回は、Carey の Toddler Temperament Scale を翻訳し、1～3 歳児用行動様式質問紙を作成し、まず 3 歳児の気質の特徴について、この質問紙を用いてその標準化を試みた。

II. 対象および方法

対象は、江戸川区清新町保健相談所において、3 歳児健診に来所した 945 名の児である。これらの児に、1～3 歳児用行動様式質問紙を初回来所時に渡し、母親に記入してもらい、2 日後の歯科健診の来所時に回収した。

また、この質問紙は 91 項目の質問項目からなり“全然～でない”から“いつも～である”といった頻度における評価を 6 段階でするようにになっている。気質の特徴は、この質問紙により表 1 に示すような 9 つのカテゴリーとして表わされ、1～5 点のカテゴリー・スコアとして分布される。またカテゴリー・スコアは、得点が高くなるほど Activity Level は高く、Rhythmicity は不規則となり、Approach は弱く、Adapta-

bility は悪く、Intensity は強く、Mood は negative で、Persistence は悪く、Threshold は低い事を示す。

III. 結果

質問紙は、3 歳児健診に来所した 945 名の児に配布した。そのうち回答のあったものは 856 名で、その回収率は 90.6%であった。

(1) カテゴリー・スコア

a) 標準値

正期産で出生し、出生体重 2,500g 以上の児で、出生時仮死を認めず精神運動発達に異常を認めない 737 名の児を正常児とした。これらの児より求めたカテゴリー・スコアを一応の標準値とし、図 1 に示した。

b) 性差

性別による違いを比較した。図 2 に結果を示したが、性別による比較では、女兒に比較して男児の方が Activity が高く、Approach がよく初めてのものも積極的に受け入れ、さらに反応を強く表わすといった傾向が認められ、女兒の方は、Adaptability はよいが、Threshold が低く敏感であるといった傾向がみられた。

c) 出生体重

正常児と低出生体重児とを比較した。この比較では、図 3 に示すように、低出生体重児は正常児に比較し、Activity level がやや高く、Mood は negative で Persistence が悪いといった傾向が認められた。

d) 出生順位

第 1 子と第 2 子以降の児とを比較した。Persistence と Threshold のカテゴリーで違いが認められ、第 1 子の方が第 2 子以降の児に比較し、気が散りやすく、敏感であるといった傾向がみられた。

(2) 気質のタイプ

Carey の定義にしたがい、気質の特徴を easy child、difficult child、slow to warm up child といった3つのタイプに分類した。

easy child とは、手のかからない子供とされる児で、生理的機能の周期性は規則的で初めての事態にも積極的に反応し、環境の変化にも慣れやすいといった特徴をもつとされている。

difficult child は、取り扱いの難しいとされる児で、easy child とは逆に、周期性は不規則で、反応は強く表わすがしりごみしがちで変化に順応しにくく、不機嫌なことが多いとされている。また slow to warm up child は、初めての事態にはしりごみしがちで順応しにくい、反応はおだやかに表わし活動水準は低いといった特徴をもち、時間のかかる子供とされている。

a) 正常児群

正常児の気質のタイプによる分類をおこない表2に示した。easy child が41.1%、difficult child が13.3%、slow to warm up child が7.5%で、これらの群に属さないものが38.1%であった。

b) 性差

正常児群の中で、性別による気質のタイプによる分類をおこなったが、easy child、difficult child、slow to warm up child のどのタイプにおいても有意な違いは認められなかった。

c) 出生体重

正常児と出生体重2,500g未満の低出生体重児の気質のタイプ別による比較をおこなった。表3に結果を示したが、低出生体重児は、正常児に比較し easy child が少なく、difficult child が多い傾向が認められた。

IV. 考察

Carey の Toddler Temperament Scale を我国用に庄司が翻訳し、1～3歳児用行動様式質問紙を作成した。この質問紙を3歳児健診に来所した945名の児に対して用い、質問紙の標準化をすすめるとともに、3歳児の気質の特徴について検討した。

この質問紙より、3歳児の気質の特徴としてのカテゴリー・スコアの標準値を求めた。さらに性別、出生体重別、出生順位別で比較検討し各々に

若干の違いを認めた。特に性別による比較では、質問紙が異なるために一概にはいえないが、以前私たちが乳児用行動様式質問紙を用いて求めた乳児期における気質の特徴と比較し、性差は明瞭となっており変化が認められた。

また Carey の定義にしたがい気質のタイプ別による分類もおこない検討した。Carey は Toddler Temperament Scale を12～23か月児に用いて報告しているが、easy child、difficult child、slow to warm up child の各々の比率は、今回私たちが報告した比率との間に有意差は認められなかった。

Thomas らの研究によれば、児の発達過程で問題行動の発生した児と発生しなかった児とでは、気質の特徴に差が認められ、気質のタイプとの関連では、easy child に比較し、difficult child に問題行動が多く発生したとしている。しかしこれは、気質の特徴や気質のタイプ自体が問題行動を生じさせるのではなく、児の持つ気質の特徴に対する養育者の不適切な要求や育児など、環境との相互作用において不調和が生じた結果と考えられている。私たちのこれまでの研究では、性別、出生体重別、出生順位別などによっても気質の特徴に差異が認められており、これらの児の気質の特徴をとらえることは、子供の気質や能力と環境の諸条件や養育者などの期待・要求との間に調和のとれた養育方法を見出し、児の健全な発達をうながすのに役立つとおもわれた。

今後は、1～3歳児用行動様式質問紙の標準化をさらにすすめていくとともに、1～2か月児用、乳児用行動様式質問紙をも用いて、児の縦断的発達過程を調査し、気質と環境要因との関連を求めていく。特に環境要因としての母親に注目し、親としての準備性、自覚および特徴などをアンケートや診察場面などにおいて調査し、母親の母性の発達との関連を求め、母乳栄養や母子早期接触の意義など、児の発達過程での母子関係、母子相互作用などについて研究をすすめていく予定である。

参考文献

- 1) 横井茂夫 他：乳児の気質に関する研究
一乳児用行動様式質問紙の標準化、慈恵医大誌、
100:871～877, 1985.

- 2) 横井茂夫 他：乳児の気質に関する研究
一乳児の気質と母児因子について、慈恵医大誌、
100:879~885, 1985.
- 3) 副田敦裕 他：乳児の気質と発達に関する研究
1) 1~2 か月児用行動様式質問紙の標準化、
慈恵医大誌、99:709~715, 1984.
- 4) 副田敦裕 他：乳児の気質と発達に関する研究
2) 乳児の気質と母児因子の相関について、
慈恵医大誌、99:717~723, 1984.
- 5) Carey, W.B.C et al. : Infant
Temperament Questionnaire, 1977.
- 6) Fullard, W. et al. : Toddler Temperament Scale. 1978.
- 7) 庄司順一 他：乳児の気質
小児科診療、44, 1225~1232, 1981.

表1 気質的特徴のカテゴリー

Activity level	The motor component in a child's functioning, and the diurnal proportion of active and inactive period.
Rhythmicity	The regularity and predictability of such functions as hunger, feeding pattern, elimination and sleep-wake cycle.
Approach or withdrawal	The nature of the child's response to a new food, object or person.
Adaptability	The speed and ease with which current behavior can be modified in response to altered environmental structuring.
Intensity of Reaction	The energy level of response, irrespective of its quality or direction
Quality of Mood	The amount of pleasant, joyful, or friendly behavior as contrasted with unpleasant, unfriendly behavior or crying.
Attention Span and Persistence	The length of time a particular activity is pursued, and the continuation of an activity in the face of obstacles to maintaining the activity direction.
Distractionibility	The effectiveness of extraneous environmental stimuli in interfering with or in altering the direction of the ongoing behavior.
Threshold of Responsiveness	The intensity level of stimulation required to evoke a discernible response to sensory stimuli, environmental objects and social contacts.

表2 気質的特徴のタイプ別による分類

	正常児 (Japanese) n=737	Carey's n=309
Easy Child	41.1 % (n=303)	37.9 % (n=117)
Difficult Child	13.3 % (n=98)	12.3 % (n=38)
Slow-to-Warm-up Child	7.5 % (n=55)	6.2 % (n=19)

表3 気質のタイプによる比較：3歳時

	正常児 (n=737)	低出生体重児 (n=40)
Easy Child	41.1%	32.5%
Difficult Child	13.3%	15.0%
Slow-to-Warm-up Child	7.5%	7.5%

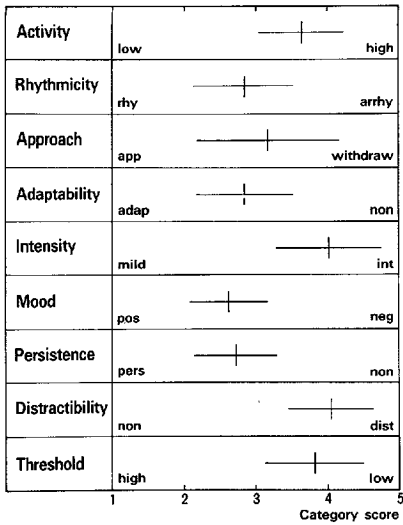


図1 カテゴリー・スコアの標準値：3歳児
(n = 737)

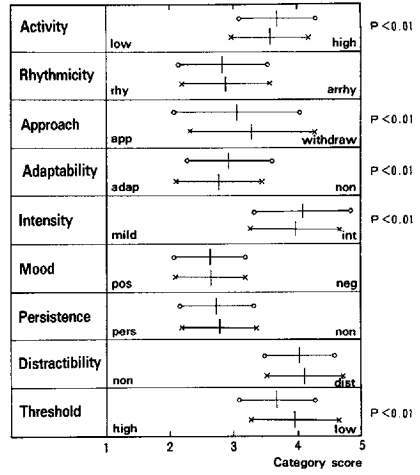


図2 性別による比較：3歳児

男児：○ (n = 342)
女児：× (n = 342)

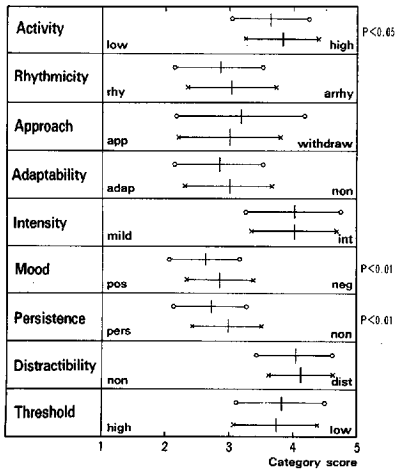
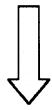


図3 低出生体重児のカテゴリー・スコア：3歳児

標準値：○ (n = 737)
低出生体重児：× (n = 40)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

児は出生後、最初に母親に抱かれ、母乳をもらい育てられる事により母親の影響を受ける。また児は、出生時よりよく泣く児やおとなしい児など、その備えもった特徴や気質により対応し、母親へ影響を与えているとおもわれる。これらの母子相互作用をはじめ、さまざまな環境要因との相互作用の中で児は成長発達していくものと考えられる。

私たちは、児を育児していく上で、児の能力だけでなく、児がどのようにするかといった行動様式・気質を知る事は、児の発達過程に重要なことと考え、これまでに Carey の Infant Temperament Questionnaire を参考にして、1~2 か月児用および乳児用の各行動様式質問紙を作成して、その標準化をすすめてきた。

今回は、Carey の Toddler Temperament Scale を翻訳し、1~3 歳児用行動様式質問紙を作成し、まず 3 歳児の気質的特徴について、この質問紙を用いてその標準化を試みた。